

## 第10回桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント検討委員会 議事概要

【日時】 平成29年2月10日(金) 15:00~16:50

【場所】 市役所議会棟2階 予算決算委員会室

【出席委員】 17人中11名出席

蓑茂壽太郎(会長)	東京農業大学 名誉教授
田中智之	熊本大学工学部建築学科 准教授
星野裕司	熊本大学工学部社会環境工学科 准教授
山下毅	日本放送協会熊本放送局 局長
吉丸良治(副会長)	熊本城下のまちづくり協議会 桜町地区会議 会長
西嶋公一	熊本経済同友会 常任幹事
永村裕子	公募委員
高木和寿	熊本県熊本北警察署 交通官
古庄修治	熊本市政策局 局長
石櫃紳一郎	熊本市経済観光局 局長
肝付幸治	熊本市都市建設局 局長

※欠席委員 上山圭司 西日本電信電話(株)熊本支店 理事支店長  
(代理出席 西日本電信電話(株)熊本支店企画総務部部長 松本泰彰)  
矢田素史 九州産業交通ホールディングス(株) 代表取締役社長  
(代理出席 九州産業交通ランドマーク(株)代表取締役社長 鳥井一治)  
土山哲司 (株)肥後銀行 取締役常務執行役員  
(代理出席 (株)肥後銀行 執行役員 地域振興部長 竹下元久)  
島田俊郎 (株)あつまるホールディングス 代表取締役社長  
(代理出席 (株)あつまるホールディングス常務執行役員総務部部長 出口正治)  
藤本淳一 熊本商工会議所 都市戦略委員会 委員長  
島崎征夫 熊本県企画振興部 部長  
(代理出席 熊本県 企画振興部政策審議監 山本國雄)

オブザーバー 大西市長

### 【内容】

#### 1. 開会・挨拶

(省略)

## 2. 報告事項

### (1) 桜町・花畑周辺地区の現状について

—桜町地区再開発事業について説明—

### (2) 前回会議の振り返り

(事務局) —前回会議の振り返りについて、資料1を基に説明—

(議長) 3つめのエリアマネジメントについては全国で色々なことを具体的にやっているの、事例を調べていただきたい。まちづくりテラスの話も先ほどの仮囲いの話と関連付けたら良いかもしれない。

それでは、検討事項に入りたいと思う。検討事項は3件あるが、まずはオープンスペースのデザイン初案についてということで、花畑公園、花畑広場、さらにはシンボルプロムナード、これを含めた全体像についての説明である。これは、部会長から、願います。

## 3. 報告事項

### (1) オープンスペースのデザイン初案について

(部会長) —オープンスペースのデザイン初案について、資料2を基に説明—

(議長) オープンスペースの全体、たたき台の初案について紹介があった。それぞれの図面に写真がついているので、わかりやすいと思う。誰でも結構なのでご意見をどうぞ。

(委員) 2点ある。1点目が花畑公園の件。部会長のほうからご提案をいただいたが、その隣の地権者として意見を申し上げたい。うっそうとした公園ということは皆さんもお分かりだと思うが、今の説明だと何本か木を残すとか、伐採、移設を一部するという話であるが、島田の意見でもあるが、こういった再開発の事業であれば一遍にやらないと何年後かに段階的にやるのは無理じゃないか。ご神木のクスノキだけ残して、あとは全部撤去する。再開発の公園の見た目もよくなるし、「新しいと百年の計」とも言われる事業で、やはり何かを変えていかないと。いいところを残すというよりも、動かせないのでもそのままにしなければならないというような方針が見え隠れしているので、逆にできないのであればできるように方向性を考えて、技術的な面も含めハードルはいっぱいあると思うが、ご神木一本残して、全部撤去するようなイメージをつくっていただきたい。

もう一点は、今回の議事とは外れるが、長堀の前、清正公の銅像から電車通りにでる道について、昔は長堀を望みながらと景観が良いところであったが、今は夕刻になると痴漢がでるようなイメージ的に悪い。長堀が地震の影響で大変かと思うが、復興にあわせてこの通りに屋台などを

賑わい創出のために置くとか、さきほどの花畑広場のイメージ図にもあった屋台骨など商業的なものを開設するなど、この再開発で考えてもらいたい。

(議 長) 2点意見をいただいた。1点は花畑公園のクスノキの問題。もう1点は坪井川の左岸の通りについて。クスノキについては、この際一遍にやるという考え方はないことはないが、熊本市民にとってみると花畑公園のクスノキというのは心のふるさとでもある。ただ今は非常に木が多すぎてそれによる弊害が大きいということで、ならしならし整備していく考え方も僕はありだと思っている。今までの継続性があるので、1本だけ残して他全部切るとするのはよくないと思う。地層そのものが意味を持っているので、たとえ切ったとしても切り株がいっぱい残ることになる。

(委 員) 歴史の観点でいうと、旧花畑邸の一角ということで、ここは非常に緑が多いところで、これを残していくとなるとご神木一本だけというよりはもう少し緑があったほうが、歴史を継承する観点において考え方としてはある。もちろんうっそうとしすぎていると問題だが、程よくバランスを考え剪定しながらというようなイメージ。

(委 員) もともと四本の木を植えたというのが四ツ木宮の原点であり、だから代継宮と呼ばれていることが今に伝わっている。四つ木宮が一番最初にできたのが約960年で熊本の原点である。そういった1000年を越える歴史の原点でもあるところなので、会長も言われたとおり整理をしながら、ゆっくり議論していきたいと思っている。

(委 員) 長堀の通りの意見は非常に重要な観点と思った。実際事業範囲はNTT、NHKの交差点までかもしれないが、そこで切るのではなく坪井川まで一体で考えるということで「風格の間」で現れているので、それを具体的に考えるということで長堀通りまでソフトな対策になるかもしれないが事業に組み込めたらよいと思った。具体的に考えるなかで、オープンスペースのデザインの中でやぐらであったりとか小さなファニチャーがデザインされると思うので、区域を越えて街中に展開されていくようにデザインされるといい。

(委 員) 花畑公園の大木の件について、私も残す意見である。例えば、アメリカのロングウッド植物園では大木にプロジェクションマッピングしてポジティブなメッセージを送るような演出があるとか、今までの暗くてうっそうとして邪魔くさいとか管理費がかかるとか思われがちであるが、これから先の未来に向けてもっと新しい親しみ方や市民と一緒に慈しんでいく等の観点を開発するチャンスだと思う。楽しく発動していくことをみんなで知恵を絞ってやっていけたらいいと思う。

- (委員) 資料2の4ページ、風格の間のところに水景施設というか、水を使った施設を作ることだが、ここは歩行者の通行空間になると思う。それと、シンボルプロムナードになったあかつきには、おそらく多くのイベントがあると思う。それと、現在、既存の祭りがあるが、おそらく、そのコースとして車道から連続してこのシンボルプロムナードを通るといふ祭りがたくさん出てくると思う。そういうときに、こういう水の施設があるのは、使い勝手が悪くなる。深さにもよるが、落ちて転落するということも考えられるし、夜間においては、泥酔者がそこに落ちて、命を落とすことも考えられるので、こういう通行の場所に水景施設をもってくるのは不適と考える。通常通らない場所に設けたほうが、安全面やシンボルプロムナードの使い勝手から考えてもいいと思う。
- (部会長) 資料2の4ページのイメージ写真、これはフランスのボルドーのブルス広場の写真で、水盤と描いてあるが、普段はドライな舗装で穴があいており、装置のスイッチを入れると水煙がでてきて、それがしばらく溜まると薄い水の面が張られ風景を映し出したりするような造り方である。危ないということがあるので、造るならこんな感じとっている。安全性とドライでイベントでも使えることを両立しながら、時には熊本城を映し出す記念写真をとれるような水のあり方を検討している最中である。
- (委員) さきほどのクスノキの樹木の関係だが、非常に難しい事柄だと直感で思ったところである。やはり花畑屋敷という、細川のお殿様が住んでおられたところで、いろんな伝統的な行事が営まれたり、たくさんの人たちが集って、いろんなことを語ったと思うが、そういうことは、我々には、具体的なものが分からないので、ここを変えるということは、かなり慎重に進めないといけない。それから、一方では、現状をみると、うっそうとしている、治安上の懸念もたくさんの方の市民の方がお持ちだと思う。なんとかこの機会にということも分かるところだが。本当は、こういう場でCGとかを使って、剪定をすると日光がどう差して、どう観えるかがわかると、どっちがいいという判断も出来るかと思うが、実際は、難しいと思うので、やはり事務局の提案にあるように、実際に剪定して、どういう状況なのか、それを見た上でないとなかなか判断できないというのが、実際のところかと思ったところ。なにしろ400年以上続く歴史があるので、歴史性をしっかり踏まえて決断していくのがいいと思う。
- (議長) 一応資料2の7ページに、CGではないけども、もっと精密な手書きの絵が描いてある。少しは減らしているというところである。
- (部会長) そのような検討を次回やっていく。できればVRとか使いながら、この

ぐらい剪定したらどのくらいになるなど、検討と同時に比較を示していきたいと考えている。

(委員) 木は確かにあったほうが良いと思う。問題は植えた後の整理である。私もも近隣の企業さんと2ヶ月に1回、ボランティア活動として清掃をやっているが、今回もこのようにたくさんの木を植えることは良いが植えた後の環境整備が一番大事である。NTTの北側の道に街路樹、イチョウの木が植えてあるが、秋にはすごい落ち葉となって、雨が降るとすごく滑る。そして、冬は銀杏の実が落ちて、臭い。そういう意味で環境整備をきちんとやっていければ良いと思う。

(委員) 生活者にとって緑は非常に大事であり、皆さん委員会ではこの資料で見られているのですが、毎日暮らしている生活者、所有者である方々にとっては、毎日のことである。緑、通行、ごみの問題などいろいろな意見がある。先ほどお話があったが、県の方でここに植樹をされるときに「イチョウを植えることになりましたのでよろしくお願いします」と言われた。地元としては、何の相談もなく何でイチョウの木になっているのか。「桜町なのだから桜の木にしてほしい」と県に言ったら、やっと鉄工所の近くに3本あるが、「ここにはどうにか植えてあげましょう」ということで3本植えていただいた。

地域の生活者にとっては必要なものだが、やはり誰が剪定をするのか、あるいはどのような樹木を植えるのか、鳥の糞が発生したときには誰が責任を取ってくれるのかという問題は市民にとっては大きい。ひいては、ここに来る来訪者や利用者にとっても重要なことである。糞が降ってくるようなところは夜誰も通りません。前回もごみの話が出たが、ごみのあるところは誰も来ない。先ほどからスケジュールを眺めていたが、ある程度の時間をとっていただいているようなので、やはりステークホルダー、関係者と個別にお話をさせていただきたい。木があることが問題ではなく、管理がされていないことが問題な場合が多い。ホームレスの方たちがいらして、ごみ置き場になっているところが木陰であったり清掃がなされていなかったりとか、総合的に生活者にとってどうかしてほしい問題である。

先ほどのイチョウの話も、緑が嫌いだからイチョウはやめてくれということではない。やはり管理をどうするか、剪定をどうするかということである。先ほど委員長からしみ出しの話が出たので、言及すると、さまざまな意見があって、NTTと市民会館の間の道路がこの絵にもあるように、イチョウが23本全部なくなるという話になっている。こういう問題も含めて、いい環境になる再開発であれば、それに対してどういうこ

とが我々にできるのかを考えていかなければならないし、もうひとつ滲み出しで申し上げると、長堀通りも、実は間接照明が入っている。欄干の裏を触ってみるとスチールの間接照明用の板がザラザラと残っている。先立って当局の担当者の方に問い合わせたところ、担当者が何代も変わっていて、そんなのあったんですかという話になった。あそこには間接照明が入っている。ガス灯だけでは照度がでないので間接照明が入っていた。この機会に、滲み出しの部分も含めて絵にあるような連続性を確保していただかないと陸の孤島ようになってしまうのではないかと考えているので、そういう観点から少し時間をかけて、回数を重ねて地域を点検していただいて、どういう方向でこれを改善していけるのかということを考えていかなければならないと思う。

(委員)

今回の再開発事業はものすごい投資だと感じていて、どういう風に経済活動して利益を出していくとか、投資を取り返していくという考え方や視点も大切であり、デザインに反映されるべきだと思う。私が考えているのは、熊本の経済だけではなくて、もっと裕福な地域の福岡とか、大阪とか、東京とか、あるいは海外の富裕層を招致してお金を落としてもらい、そういった観点とか。また、コンセプトのほうでも、しっかりとにぎわっていることだけではなくて、もっと商業活動を活発にするとか、もっともうかる経済特区といった強い意気込みと、巨額の投資をして、自分たちが圧迫していくのではなく、もっとどんどん外貨を稼いで熊本の経済を持ち上げていく、未来の世代に返していく、新しい町だよということをあらわしていくことがいいかなと思う。

広場の設えとしてないなと思うのは、産交さんのホテルのクラスとか、店舗の種類とか詳細がわからないが、もう一步レベルの高いものが入っていると仮定して、そのような方が散財できるような場所であるとか、お金持ちが選んでくれるインフラとかがあると、もう少し買い物したいとか、おいしいレストランやカフェとかがみえてくる。女性が着飾って出かけたり、男性の通行客が増えてきて、賑わいが自然に出てくればいいなと思った。そのなかで、ロンドンにスピチャルフリーズマーケットというのがあり、ここには大きな駅とか、屋根の覆いはあるが、ここも再開発事業で、きっちりマーケットが入っていてにぎわっている。そこに土日とか人がすごく入っていて、賑詰め状態である。その下のサンクンガーデンの部分には、大きなお手洗がある。平日の賑わいが1万人規模になったとしても、用をたせる場所がきちんと整備してある。ここは有料のトイレできちんとされている。サンクンガーデンを整備されるのに、地下の部分へのトイレなどの記述がなかったのであってほしいな

と思う。それがあるとお店とか商業とか、イベントなどで人が押し寄せたときなどを踏まえ、デザインに反映していただければ良いと思う。天神地下街のお手洗いのすばらしさが最近話題になって、私も見ましたし、きれいで特徴のあるお手洗いって女性に人気があって、女性の集客につながる。そういった女性の集客を見逃さない設えも是非やってほしい。

(部会長) サンクンガーデンの地下の部分についても、トイレやカフェも考えていて、そのグレード設定はいろいろとあるが、もちろんイベントにきた方、あるいはそこが目的になるようなことをしないとわざわざ地下まで行かないよねということもあるので、地下駐車場の利活用も含めて検討しているし、今後も検討していきたいと思っている。

加えて言えば、経済的なことで別委員会があるが、具体的に(仮称)熊本城ホールとか、指定管理などを問題にやっている。これはまだイメージの段階だが、シンボルプロムナードや地下駐車場も含めて一体的に管理・運営をしていくと、できればおっしゃったように、少し上のグレードも想定しながら、でもそれだけにすると、熊本市民としてはお高くとまっているみたいな感じになってしまうので、バランスをちゃんと考えながら両立していく必要がある。まあ難しいとは思いますが、そのへんを想定しながら、どういう風にここを経済活動としてまわしていくかということ、デザインとも関連しながら検討していく。

(委員) こういった会議の場での、フォーマルな場での発言ではなくて、この間私と同じくらいの年の女の子たちで集まったときの会話を、ちょっとご参考までにすると、「熊本ってデパートも、それからホテルも、地場の一強だから、経済とかの天井があるよね。お金持ちの熊本のひとつとしてすぐに福岡で食事にいったりとか、何かあると熊本市民が、福岡に行ってキャナルシティとかでお買い物して帰ってきたりとか、そういうのがあるよねー、って。で、東京とか、名古屋とか行って遊んでいたら、ものすごいブランドのお店とかもいっぱいあって、地下街も3層になっていて、でも、どこもオシャレで、あのすごくかっこいいんだけど、名古屋って、観光資源は、熊本よりも恵まれていないよね。名古屋城もそんなにたいしたことないし、いい海があって、いい山がある、おいしい温泉がある、きれいな海が、そんな話はきかないよね。だけど、熊本って、観光資源はすごく恵まれていて、でも例えば、ペニンシュラホテルとか、アマン東京のような、高級ホテルっていうものがなくて、こう、富裕層とかには、あの一泊で、極端な話をすると100万円とか単価の高いお客さんとかがドンと来たりとか、あと若い熊本の子達が、ジャガ

一で乗りつけて高い買い物をするような、かっこいいおばちゃんを目撃して憧れるような、キラキラ女子とかが、行けば溜まってそうな、そういった憧れの場所ってというのがなくて、やっぱりそういうものを求めて東京とか、大都市に行くよねー、みたいな。」

だから、今の熊本にないのって、こういう所だし、熊本の持っている豊かな観光資源をいかに安く、お得を追求するのではなくって、そこを高級アップグレードとか単価の高いお客さんとかでやって、例えばここを周辺の開発に対してビジネスホテルしかなくて、一泊いくらくらいしか収益がなかったら、何年経っても、取り返しが効かないけれども、絶対・・・

(議 長) ちょっと手短にお願いします。

(委 員) そういうのがあったら、そういうのがあるよねー、とそういう会話が合った。どうまとめていいかわからないが、経済活動と抱き合わせたプランで、どうやって投資を取り返していくかとか、地区のブランドや経済を高めていくかとかを抱き合わせると、女の子などの集客につながるのではないかと思った。

(議 長) 熊本は多様な資源があるけれども、多様な主体がある、ちょっと考えなければならぬことかもしれない。そういった意味では、公がやることと、民がやることと、役割分担があると思うし、この委員会が、まちづくりマネジメント検討委員会とつけられたのは、実は、そういう多様な主体がいて、あるいは、経済のことも考えて、今回の再開発の効果も考えましょう、といった内容だった気がする。ありがとうございました。他には、はい、どうぞ。

(委 員) シンボルプロムナードの31m×200m以上の空間というのはちょっとすごいな、と改めて思った。先ほどもご指摘があったが、おそらくこの空間はパレードの通り道になると考えられる。そうすると例えばこの道の両側に、スタンド、観覧席などを設けてそこをパレードを通すとか、そういうこともあるのかなと考えるけれども、そう考えると、今みたいな木を植えたり、骨組みをおいたりとか、それも非常に良いアイデアだと思うが、固定されたものを置かずに、まっ平に31m×200m以上のまっ平なスペースを、シンプルに置いておくということも1つの考え方ではないかなと。そういうスペースがあれば、例えば、具体的なことは思い浮かばないが、スポーツ的なイベントをそこで開いたりとか、シンプルにしておけば色んなイベントのアイデアが出てくるのではないのかなという様な感じもしている。そうして欲しいということではないが、考え方の1つとしては、あるのではないかなと思ったところ



だった。

- (部会長) 全く僕らも同感で、2つのことをイメージしている。1つはおっしゃったようにスカーンとした空間、すっからかんの皇居の前の行幸通りみたいなスペースにしたいということと、でも、365日それだと寂しいよね、ということもあるので、きちんと居場所ができたりする、そういうことをどうやって両立できるかということをするもんだしながら検討しているところ。今のアイディアは、先ほど27mに分節すると言ったが、そこに石畳を設えて、今後周辺事業者さんと相談しながら、どのぐらい平地を残すかということ、個々の領域でやっていって、でも全体としてはスカーンとした空間が残っていながらも、ある種の密度感、ヒューマンスケールの場所ってというのが、周辺のにぎわいとともにより出てくるような、これを何とか両立したいとは、僕らも継続して思っているのでもう何かお知恵をいただきながら、やっていきたいと思う。
- (議長) どこかに言葉としては出てはいますけれども、「場面転換」という言葉を使っている。この「場面転換」ができるようにしたいということ。その辺でこれからどう具体的にやっていくかが大事になってくる。
- (委員) 私も今議長がおっしゃったことはそう思うが、(仮称)花畑広場に屋根を設けているが、ちょっとそこに違和感が。夏のイベントで少し日陰ができるのではないかとということで事前説明があったが、夏はちょっとくらい設けても熊本は暑い。逆に屋根をもってくることによって、広場で行うイベントに制限がかかるのではないかと気がした。この広場自体が二の丸に比べて広いスペースではない。ここは、そういった可能性を潰すのではないかと気がする。
- (部会長) なので、(屋根を)微妙な表現にしている。薄く描いていて、描いてあるか、描いてないかよくわからない表現で。僕らもちょっと迷っているところ。
- (委員) 手短かに申し上げます。可動式プランターだが、可動式なのでイベントのときに片付けたり寄せたりとか、台風が接近している場合などちょっと移動して吹き飛ばされたりとか不安定なものになるので、前もって格納場所を確保しといて、その格納エリアで確保できる数量をわりあてるといふデザインが必要だと思う。
- (議長) 2つめの検討事項、歴史性を踏まえた空間整備について、説明をお願いしたい。

(2) 歴史性を踏まえた空間整備について

(事務局) ー歴史性を踏まえた空間整備について、資料3を基に説明ー

(議長) 先ほど花畑公園の議論でもございましたが、そういったものをできるだけ整備したいというのがありまして、部会長の説明でもあったように、マイルストーンかなにかでできたらいいのではないかと。そういう物を残す場合には歴史上の記述に間違いがあっては困るので、専門家の精査を受けながら、反映して行きたいというのが1点である。

もう一つはシンボルプロムナードというのは、非常に人が集まる空間になるだろうから、歴史性であるとか、土地の地域性も大事にしているので、そのことについてもどこかで、表現できるのではないかと。例えば、シンボルプロムナードの舗装面に何かを一工夫するようなことがあっても良いのではないかというような議論が出たので、やはりそのことについては時間がかかるので少し時間を頂きたい、その為の検討というのが主旨である。シンボルプロムナードのデザイン確定までに、色んなことがこの空間で使えるかということ調べていきたいと思う。

(委員) L字型の袋小路が公園の後ろまでつながっている。概ね地図で測量した資料も残っているが、幅20間、その幅が31mのまさに歴史が残っている。そういった点で大変貴重な公園、あるいは公園の前の通りもまさに、庭つづき230mのシンボルプロムナードになるだろうが、この辺りは熊本の良い歴史的な中心のやぐらですばらしい庭つづきの一体という、そのようなイメージがさらに便利な工夫もこれから見せて頂ければ、おそらくどこにも無いような良い都市空間ができるのではないかという感じがする。

(議長) あと、古い時代ですが、辛島公園がなぜできたか、辛島さんという市長がいたということは皆さんご存知かと思うが、都市改正を一早く辛島さんがされた。都市改正というのは今の都市計画から始まるのですが、日比谷公園等ができて、そういうのを地方としてこんなに早くやったのはない。そういったものが、市街を作っているとか、熊本の鏡だと思うので、そういったものも読めるようにしたら良いのではないかと思う。後は時代時代で学べる所、博物館はあるけれども、それではない形ということ。

こういう方向で進めていくということをご了承頂ければと思う。何か関連することでもございましたら、事務局の方に引き続きお伝え頂けると大変恐縮でございます。よろしく申し上げます。

(3) 桜町・花畑周辺地区のエリア防災計画の策定状況について

(事務局) ー桜町・花畑周辺地区のエリア防災計画の策定状況について、資料4を基に説明ー

(議 長) 審議も含めまして何かございますか。部会は。

(部会長) 部会は2回あって、ご説明があった通りだが、1回目は地震が起きてどうだったかということ、各事業者さんに報告して頂いた。具体的にどういう課題があったか、今だから振り返って言えることを報告してもらった。2回目は、それを聞いた上でどうするか、どういうふうにやっっていこうかというのを議論し、3回目も宿題になったが、もし地震が起きてなくて、事前にこういう会議を設けた時に、どういうことを決めておけば、どういうことを事前に話して共有するか、決め事を行っていてよかったなという想定で、各事業者さんの立場で色んなアイデアとか意見を出そうと。それぞれ強みや弱みがあるだろうから、それを踏まえて、想定として、地震と特に水害において、事前にこれを決めておけば良かったよねということ、まずアンケートという形で書いて頂いて、持ち寄ってまとめて、次回それを全体的にまとめていくという段階になってきた。最終的に夏までにはエリア防災計画の策定を考えている。

(議 長) 地域防災計画も検討されているがどうなっているか。関係は。

(部会長) 地域防災計画も書いてきているが、それをベースにしてそこで網羅できない来街者で、街に来たお客さんとかそういう交流人口を受け止める場として、桜町花畑と今後駅周辺もそういうことが出てくるので、まずフロントランナーとして考えるという関係性である。

(委 員) 地域防災計画、今後エリア防災で議論して、いくつかエリア防災で取り組まれていくのではないかと思う。もう一つは議論で参加しているものの、将来的にはおそらく、非常時に皆で連携していく為には、毎年1回程防災訓練を一緒にやっておこうねとか、そのようなアイデアが出てくるのではないかと思う。それが例えば先ほどの地域で維持していくために落ち葉の管理や清掃活動など、エリアマネジメントに関連していくと良いなと思っている。このエリア防災の議論と先ほどのオープンスペース、公共空間において二つともリンクしていくということが大切かなと感じている。

(議 長) それではその他、事務局から2件お願いします。

#### 4. その他

(1) 桜町・花畑周辺地区まちづくりフォーラムの開催について

(2) 照明実験の実施について

(事務局) —その他事項について、資料5、6を基に説明—

(委員) フォーラムですが、先ほどもございましたが、木下さんが来られますので経営的なことが論点になるのではないかなと思うので是非お時間がある方は来て頂ければと思う。

(議長) 全体を通じてなにかあるか。

(委員) 前回会議の振り返りで、周辺との連続性について当該地区への投資効果をいかに最大にしていくのか検討する必要があるということで書いてあるが、これからさらにどうしていくか、地域がどう活性化していくかということで、先ほど耳を疑ったのが、このまちづくりマネジメント検討委員会という名称としたのは経済のことまで考えているとおっしゃっていたので実は耳を疑った。というのも、この委員会をそもそも設置したのは、桜町地区及び・花畑地区に挟まれる一体的な空間の整備、利活用による継続的な利用の方法に関する事項。私26年に任命されて、その前から傍聴してここでどういう議論があったか、委員の任命、資料の検討事項をシンボルプロムナードに面する建物等に関する整備、シンボルプロムナード及び一体的な利活用に関する事項、シンボルプロムナード及びその周辺の持続的な活用ということで、どういう会か出ているが、皆さんから聞かれる。この委員会でどういうことを話されているのですかと。要はシンボルプロムナードと広場の話だけである。端的に言うと、着工なさって、議論されて、今足りていることは、地権者にとっても住民にとっても、この空間整備というのは重要で、先ほど申したように、木がなくなって歩道幅が狭くなる、桜町住民からは光と闇ですねと指摘があった。それはなぜかということ、この後投資をしようと思っていたのに、目の前の木が切られて歩道が狭くなるのは闇と受け取ってもらいたい。それはこちらに置きまして、これから経済的にどういう風に活性化を導くかということに関して、先ほど申し上げた設置の規定をもう少し考えて頂くということとか、いくつか部会を分けて、もう少し専門の方にもファシリティマネジメントの議論もこれから必要でしょうし、賑わいというのが広場を賑わせるのか、街を賑わせるのか、どっちの議論か疑問だが、広場が賑わなくても街が賑わえばいいのではないかと、端的に申し上げると。年度が変わる訳ですので、次の着工が決ったから次のステージに向けて、民間と行政とでどういうことがこれからさらに積み上げられていくかということで、先ほどご指摘させて頂いた点

をご検討頂いて、今まで5年間で10回しかない、盆と正月だけ開かれてそういう点を指摘して、さらに良い委員会にして頂ければと、提案として申し上げます。

(市長) おそらく最初に設置をされた当初と環境状況が随分変わってきて、見えていなかった所が見えてきた、あるいははっきりしていないことをはっきりしなければならないということで、段階が変わってきたと思う。次これだけの投資をしたことをどれだけ広げていくのかと、桜町全体のこの狭いエリアだけではないですよということも確かにあると思うので、当然ここを起点にした、まだ整理されていないことが山のようにあるが、このシンボルプロムナードの使い勝手も含めて、それを整理していくことを中心に見据えていく。これがどう周辺のエリア、熊本城の大広間ということで、庭つづきということであるならば、当然坪井川の左岸であるとか右岸であるとか、こういったこともつながり、それが他の商店街とのつながりであるとかということも、当然関係してくると思う。今確か私も市長になってその直後、西嶋委員が選任されて入って来られた時にその先のことまでここで議論しても良いのではないかと行ってらっしゃったことを少し思い出した。少し広げて今、蓑茂先生もおっしゃったように色々これから、展開が変わってくるということで当初の条例に基づく会議設置の規定に、エリアマネジメントの観点であるとか、それから今公園の管理も含めてですけれども、パークマネジメントというような概念、それから歴史という話も今入ってきたが、文化的なものとの整合とかそういったことも加わってくると、この会議をなかなかこれだけのメンバーを盆と正月だけですが、年に、月に何回かという風にもなかなかいかないと思うので、それで部会があると思うが、部会での議論を、もう少し色々な形で皆様方と共有できるような場をしっかりと作っていくということ。それから今どうやって稼ぐのかということも含めてですが、桜町・花畑地区のまちづくりフォーラムをやりますが、やはり今までは再開発事業をどうやってスタートさせていくのかという所に非常に力点があったのですが、これからは完成した先、その先をということを議論するように展開していかなければならない。そのためには私も努力をしたいと思うが、まちづくりフォーラムであるとか、皆様のご意見のように、祭りで沢山使えるよねというような皆様からのアイデアが出てくる。そういうことを、情報を沢山提供し、皆様のご意見を温めてくような場も設定しながら、この会議の位置付けというのを、もう少し幅を広げて充実していきたいと思うので、その辺は事務局の方でも整理をさせて頂くが、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

(議 長) 他に何かあるか。

(委 員) 先ほどの話をまた振り返すかもしれないが、花畑公園の話、地権者という話も色々出てきたが、私の方も前が広場というか、バスのロータリーになっていますが、ゆくゆくは開発も終って、何らかの建物、形になるものも、いずれは作る予定になっている。ただ、今の構想案は計り知れないものもあるので、何になるかはわからないが、ゆくゆくは私もそこで働くのか、そこに遊びに行くのかということをイメージするとどうしても、花畑公園に今のところ納得がいかないので、そこを整備されるということで、色々な歴史的な物、技術的なもののお話が出てきたが、本当に皆が憩える花畑公園にして頂きたいというのを最後に一つお願いしたい。

(議 長) それではよろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

## 5. 閉会

(省略)

以上